

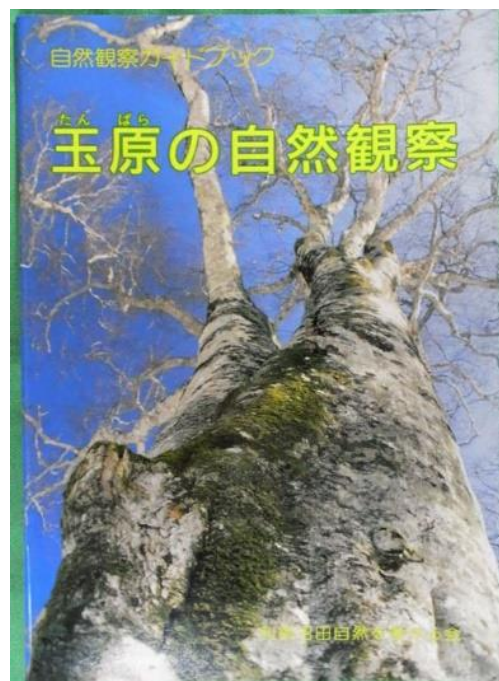
甦るかメモリアルブナー根付切り株の保存に挑戦ー

利根沼田自然を愛する会

1 目的

「森の博物館 玉原」のブナ平にメモリアルブナと名付けられた切り株がある。このブナは遊歩道脇に生育していた大木であったが、2011年に枯れ、翌年根元から切り倒された。生育時は、沼田市第環境基本計画書（1次）の表紙や当会玉原自然観察ガイドブックの表紙になった木である。このように玉原を代表する大木であったので、切り株になっても上記のような名称が付けられ保存が考えられた。この木がどれほどの大ききだったかという、地上80cmの高さで直径は約116cm、切り株の年輪は238本を数えた。したがって樹齢は250年以上であったと思われる。

保存の目的は、人々が現地でこの木の年輪を観察することに意味があると考えたからである。年輪を調べることで、約240年前から営々と続いてきたこの地の環境変遷をその場で体感することができる。まさにこの切り株は、現場に残された自然環境教育の優れた教材の一つだろう。



2 方法

意味のある切り株であることを当会から沼田市にも説明したところ、保存事業に賛同を得た。そして保存作業は、2013年秋からは当会と沼田市での協働事業となったのである。

これまでの実施作業を時系列に沿って振り返ってみる。

2013年6月9日：当会によって切り口表面の鉋かけ

同年11月2日：市から委託の業者による切り口の再カット

※保存方法を色々調べたが、根付切り株をそのまま保存する方法が見つからず、極力現状を維持のため防腐剤の浸透を考える。

同年11月6日：当会による防腐剤20ℓ浸潤

同年同月10日：当会による2回目防腐剤20ℓ浸潤

2014年7月31日：沼田市による3回目防腐剤20ℓ浸潤

同年8月1日：沼田市による切り口表面のビニール塗料コーティング

同年9月12日：沼田市による表面コーティング下の水抜きとコーティングのやり直し

同年10月27日：当会によるコーティング一部の接着剤加工

同年11月9日：冬期の雪による浸潤を防ぐため、当会で全体をブルーシートで覆う



3 結果

2013 年晩秋に行われた防腐剤浸潤によって、根付切り株の冬越しは腐りが進行せず、切り口表面の年輪は鮮明であった。このことから、材の防腐については防腐剤の浸潤によってある程度抑えられることが分かった。

しかし翌年春以降の気温上昇と、地中根での水分吸い上げにより、切り株の一部腐食は進行した。7 月に行われた 3 回目の防腐剤浸潤により、腐食の進行は緩やかになったが、根からの水分上昇は部分的に継続している。表面のビニール塗料によるコーティングで雨水等による濡れは防げたが、地中からの水分でコーティング下に水泡ができた。この水泡部分のコーティングを剥いで、再度コーティングをやり直したが、新たな場所に水泡が生じた。冬を迎えたため、今後は上昇水分の対策と、年輪理解のための表面文字表示を検討することにした。



4 考察

薬によって防腐は抑えられるが、根付切り株であるため地中からの水分供給が止まらない。これを無くすようにしなければ、いずれは腐食が進行して切り株の形は崩れることになるだろう。そこで 2015 年には、周囲に広がっている太い根を切断すること、幹側面を穿孔しそこから防腐剤を浸潤させること、の 2 点の実施を検討している。根の切断によって地中からの水分供給はかなり減るだろうし、側面から防腐剤を浸潤させることで切り株全体の防腐が図られると思われるからである。現地で根付切り株をそのまま永年保存することは困難なことで、今回の事業で考えているのは、少なくとも 5 年以上の現状維持を可能にしたいということである。

また表面の文字表示は、特徴的な年輪部分に表記シールを貼ることを考えている。

5 キーワード

根付切り株の現地での保存、防腐剤浸潤、表面コーティング、根の切断

